

令和4年度 学校評価

令和4年度重点目標 ①指導支援の充実～楽しい（できた、分かった）学校づくり～ ②安全で安心な学校づくり ③教職員の多忙感解消～教職員が元気で質の高い学校づくり～			
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
幼・小学部	つながりのある学習を意識した授業を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に各教科等の内容を取り入れた段階的な指導を計画して実施する。 ・一貫した指導・支援が行えるように、学年会やスタディ会において、幼児児童の情報や指導方針を共有する。 ・友達や指導者と関わる機会を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい実態把握と適切な課題設定を行い、個別の指導計画、年間指導計画を活用して計画的に授業を実施する。幼児児童が主体的に学習に取り組めるように、支援機器や支援具を効果的に活用する。 ・指導者同士が幼児児童の実態、課題、学習の取組の様子、評価等を共有するために、頻繁に情報交換を行うことに努める。 ・ICT機器を活用するなど、さまざまな形で幼児児童が人と関わる機会を設けるようにする。
中学部	一人一人が主体的に活動できる指導・支援を充実する。	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画等を適切に活用し、目指す姿を明確にした指導計画を立案する。 ・一人一人に学びのある授業を実践・評価し、授業改善を積み重ねる。 ・教員の専門性を生かし、情報共有、学び合いの充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画、個別の指導計画を基に、学習面・生活面での目標について保護者と共通理解を図る。 ・一つ一つの授業の中に個々の学びが設定され、学びの積み重ねが図られるようにする。 ・教科指導、自立活動、ICT活用など多岐にわたる知見をチームで共有し、授業実践につなげていく。
高等部	卒業後の生活を見据えた指導・支援の充実を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校段階で培った力を基に、系統性のある適切な課題設定を行う。 ・対話的な学びを大切にするとともに、自己選択・自己決定の機会を積み重ねることで主体性を育む。 ・各生徒の特性に応じた体験的な学習を通して、社会生活に必要な知識・技能や取組方法を実践的に学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の心に寄り添い、相談や悩みに適宜応じるとともに、連携体制を整えて支援を行う。 ・高等部3年間を見通し、学校内外の実習や校外学習などの実践的な活動と調べ学習や通常の授業を関連付けて指導する。 ・個に応じたICTの活用とさまざまな支援具の利用を促進する。 ・生徒呼称、生徒への言葉掛け、生活年齢に応じた授業内容の工夫等に配慮する。
訪問教育	個々の特性を生かし、他者とのつながりを感じられる授業を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童のもてる力を伸ばす支援方法や興味・関心を広げ思考力を育む授業づくりをする。 ・訪問生同士や通学生とのつながりを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の特性に応じた教材教具を工夫する。 ・年間指導計画を立てる際には、所属学年の取組や各教科等の内容も考慮する。 ・各々の活動を動画で見合う取組に加え、テレビ会議システムを利用し、オンラインでの授業交流も積極的に進めていく。
総務部	教職員の多忙感解消のために、文書作成業務の効率化や物品の効率的な整理管理に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・行政文書の整理の観点から、コスト削減と運用の見直しを図る。 ・整理整頓に努め、非効率な業務に費やす労力や時間を削減する。 ・行事予定や関係機関からの便りなどをわかりやすく周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一宮書式集の試用を開始し、検索や共有の利便性を高めることで、効果的な運用を目指す。 ・昨年度に引き続き、物品の整理管理（データ化、ラベリング）、整理整頓を行い、時間や物の有効活用を提案する。 ・校内掲示板や校内情報共有グループウェア（以下G S）を活用し、関係部署と連携して、情報発信を行っていく。
教務部	正しい実態把握と新学習指導要領に基づく目標・手だて・評価について検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画の目標・手だて・評価の見直しを継続する。 ・評価（文章表記）の例などを発信していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の3観点の評価の仕方を教科会、スタディ会等で検討する。 ・目標に応じたICT機器の活用を検討する。
研修部	教職員の能力や専門性の向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校の教員として必要な知識、技能の習得、安全に関する訓練等の研修を計画する。 ・確かな学びを育てる授業づくりを行うための研修・研究等を発展させ、授業力の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各関係機関と連携をとり、多様な研修方法で全校研修や各研修会の内容の充実を図り、肢体不自由教育の専門性の向上を促す。 ・長期休業中等における自主研修会の内容の精選を図り、教職員相互が研修できる環境を整える。 ・「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善のために、各部で取り組んでいる研究や教材・教具、ICTに関する情報等を学校全体で共有できる試みをする。
図書部	安全に活用できる図書室にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な感染対策をして幼児児童生徒や教職員が安全に利用できるようにする。 ・展示や図書掲示を企画、活用して幼児児童生徒の図書への興味・関心を高める。 ・バーコードによる蔵書管理を徹底し、貸し出しや不明本を効率よく正確に把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・貸し出しや返却時、図書室利用時に感染対策をしたり整理整頓を心掛けたりして安全に利用できるようにする。 ・リクエスト本や需要に合った本を購入したり、興味関心をもちやすい掲示や展示の企画を考案したりする。可能であれば外部の読み聞かせの機会を活用していく。 ・蔵書管理ソフトのアップデートやメンテナンスを行い、バーコード管理ができる環境を整えながら、貸し出しや返却の手続き、蔵書点検を間違いなく行えるように確認する。

教育情報部	研修を充実させ教員の ICT 活用指導能力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が主体的に授業でタブレット端末を活用できるようにするために、職員がタブレット端末の利活用推進を様々な研修を通して進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒用のタブレット端末内のアプリの有効的な使い方や、アプリを利用しての授業展開など、より実践的な研修も増やす。
生徒指導部	安全で安心な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体で組織的・実践的な訓練・研修を実施していくことで、児童生徒及び学校職員が防災に対する意識をより高めていけるようにする。 幼児児童生徒が置かれている現状の正確な把握とともに職員間での迅速・確実な情報共有に努め、学校として実効性のある対応を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 見直しを行った災害対応マニュアルを元に訓練を実施し、災害時の各担当業務の内容確認とともに更なる業務内容の精選及び修正を行っていく。 心のアンケート及びいじめ・不登校等対策委員会を継続的に実施していく。子ども達の些細な変化も見落とすことがないように、日頃から職員全体で見守っていく。子どもたちの現状把握、職員間での迅速な情報共有に努める。また、校内全職員が一体となって組織的な支援を実践していく。
進路指導部	一人一人のニーズに応じた適切な進路指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の視点から幼児児童生徒の正しい実態把握をして、本人の意思と年齢に応じた支援を大切にすること。 学校生活から卒業後の生活への移行をスムーズにできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 年齢に応じた意思決定支援を行い、保護者、関係機関と連携しながら、自ら進路決定できるような心の成長を促す。 具体的な支援について関係機関との連携を充実させ、月光生活と卒業後の生活が結び付くイメージがもてるように情報提供を行い、年齢に応じた日々の指導・支援を生かす。
保健部	幼児児童生徒が健康で安全に学習でき、より安心して通える学校を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 保健や環境及び給食に関することや医療的ケアについて全職員で共有し、学校全体で取り組む。 職員及び幼児児童生徒が、適切に感染症予防ができるよう環境を整えたり情報提供したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健管理や保健教育に関する研修・訓練及び共通理解の場を設定し、教育活動と一体的に進められるよう、全職員への共通認識を図る。 愛知県教育委員会の通知を踏まえ、各部や教育課程等の実情に合った感染症予防ができるよう啓発する。
自立活動部	自立活動の指導において、正しい実態把握と適切な課題設定を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた指導内容や方法を選定し、自立活動の指導の充実を図る。 職員の自立活動に関する専門性の向上及び指導内容・方法の充実を図る。 外部専門機関との連携を活用したり、職員が自ら学ぶきっかけとなるような校内研修を計画したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「個別的教育支援計画」の目標と関連付けて考えることで、自立活動の指導目標を設定するに至る判断の根拠が分かるようにする。 基礎的・基本的な内容を中心に、実践的な内容やディスカッション形式を取り入れ、お互いに情報交換をしながら学んでいくような勉強会や相談会を実施する。 外部専門機関との連携を積極的に活用し、相談内容やアドバイスを指導の参考にできるようにする。
教育支援部	特別支援学校のセンター的役割を担い、校内外の支援が必要な幼児児童生徒へのコーディネートを行う。また、関係機関との連携を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 夏季休業中に特別支援教育研修会を行う。校内外にセンター的機能の取組や特別支援教育に関する情報の提供、校内外の連携、協働から支援を進める。 地域の縦横関連機関と連携して「みんなプロジェクト」を実施し、校内外に発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修会、相談活動の実施、必要に応じて担当者会議、校内支援会議等の調整を行う。 「みんなプロジェクト」において、職員、保護者向けの姿勢保持や生活に役立つ小物制作研修会を実施し、掲示やホームページなどで紹介する。
寮務部	卒業後の生活に生かせる生活習慣・社会性が身に付く寄宿舎。	<ul style="list-style-type: none"> 生活経験を広げ、主体的に生活する力を身に付けられるようにする。 自己理解を深め、必要な支援を適切なタイミングで求められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の課題を明確にして目標を設定する。目標達成に向けて家庭や学校と連携しながら指導・支援を行う。 舎生からの依頼があるまで「待つ・見守る」姿勢を大切にし、自発的に行動する場面を多く設定する。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		指導・支援の充実（ICTの活用、タブレット端末の利活用方法の模索） 安全で安心な学校づくり（感染症対策、情報発信の充実、心のアンケートに関する取組） 教職員の多忙感解消（文書作成業務の効率化、職種や分掌等を越えた横断的な取組による業務改善）	

令和2年度 学校評価

(1) 自己評価結果

令和3年度重点目標			
①指導・支援の充実～楽しい（できた、分かった）学校づくり～			
②安全で安心な学校づくり			
③教職員の多忙感解消～教職員が元気で質の高い学校づくり～			
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
幼・小学部	つながりのある学習を意識した授業を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> 計画的に各教科の内容を取り入れるとともに、段階的な指導を計画する。 一貫した指導・支援が行えるよう 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児児童の授業の取組の様子を形成的に評価し、指導内容を改善しながら習熟度に応じて段階的に指導を進めることができた。 学年や学習集団の職員が共有した情報を基に指導方針の

		<p>に、学年会やスタディ会において、幼児児童の情報共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達や指導者と関わる機会を設定する。 	<p>共通理解を図り、一貫した指導・支援を行うことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレビ会議システムを活用して交流及び共同学習を実施した。感染症が流行していない時期に体育館で部集会を行い、異なる学年同士と一緒に活動する機会を設けることができた。今後は、感染症が収束しない中でも可能な限り友達同士で関わるができるために、よりよいICT機器の活用方法等を模索していきたい。
中学部	生徒の主体性を育て、学びのある授業をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、関係機関等と連携し、正しい実態把握と適切な課題設定を行う。 ・生徒の表出行動を受け止め、さらに引き出す働きかけを考えた授業づくりをする。 ・T.T指導が有効に機能できるよう、協力して、授業改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部全体で生徒一人一人の個別の教育支援計画を共有し、日常生活や授業における適切な課題設定を行うことができた。 ・他校とのオンライン合同授業で互いに意見を伝え合う姿、音声認識アプリを活用しコミュニケーションを広げていく姿、手製スイッチを操作する姿が見られるなど、生徒の主体的な働きかけを促す授業づくりに取り組むことができた。引き続き表出を引き出す授業づくりに取り組んでいく。 ・関係職員で行事や授業等の準備を行う機会を有効に活用し、情報共有や意見交換を深め、指導・支援につなげていくことができた。
高等部	卒業後の生活を見据えた指導・支援の充実を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校段階で培った力を基に、系統性のある適切な課題設定を行う。 ・対話的な学びを大切にするとともに、自己選択・自己決定の機会を積み重ねることで主体性を育む。 ・各生徒の特性に応じた体験的な学習を通して、社会生活に必要な知識・技能や取組方法を実践的に学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各生徒との対話を大切に課題設定を行い、主体的な取組を促すとともに、職員間の情報共有や個別の支援会議を随時行い、保護者や外部機関と連携しながら、個に応じた支援に努めた。 ・テレビ会議システム、学習支援アプリ、クラウドを使った学習課題のやり取りなどICTの実態に応じた活用が増えた。研修等で事例を共有し、さらに裾野を広げていきたい。 ・校内外の実習など卒業後に係る体験的な取組については、各生徒の意思選択を大切に、外部機関との連携を密にとり感染症対策を工夫しながら実施することができた。
訪問教育	個々の特性を生かし、他者とのつながりを感じられる授業を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童のもてる力を発揮できる教材・教具の工夫や支援方法を探りながら授業づくりをする。 ・訪問生同士や通学生とのつながりを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に応じた自作スイッチなどを活用し、達成感を感じられる取組を行うことができた。 ・集団学習を実施でき、学年の友達や多くの指導者と関わる機会をもつことができた。また、訪問生の授業動画を通学生に視聴してもらう機会を多く設けたことにより、訪問生も学年の一員であることをより意識付けることができた。次年度はテレビ会議システムを利用し、オンラインでの授業交流も進めていきたい。
総務部	教職員の多忙感解消のために、文書作成や物品の効率的な整理管理に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・行政文書の整理の観点から、コスト削減と運用の見直しを図る。 ・整理整頓に努め、非効率な業務に費やす労力や時間を削減。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営や教育活動に必要な共通書式を整理し、様式など利用が主目的のものとマニュアルなど情報共有が主目的のものに大別した。さらにそれぞれ部署ごとにまとめたテンプレート集を作成し、次年度から運用できるようにした。次年度の試用を経て、より利用しやすいものに改善していく。 ・備品や物品の所在と個数について調査し、物品の整理管理（データ化、ラベリング）に着手した。今年度は掲示板、長机等まで進んだので、次年度以降さらに進めていく。
教務部	正しい実態把握と、新学習指導要領に基づく目標・手立て・評価について検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画の新様式を作成し、具体的かつ客観的な情報を把握する。 ・個別の指導計画の目標・手立て・評価の見直しを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育支援計画の見直しを進める中で、全校職員の意見を収集し、より正確な実態把握や支援に必要な情報を精選した。 ・新学習指導要領の3観点の評価について、各部教育課程委員会やスタディ会で検討を行った。目標・手立て・評価についても今後も検討を続ける。
研修部	教職員の能力や専門性の向上を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校の教員として必要な知識・技能の習得、安全に関する訓練等の研修を計画する。 ・確かな学びを育てる授業づくりを行うための研修・研究等を発展させ、授業力の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校研修は、5回計画し、救急法・アレルギー研修・人権研修・進路研修・情報モラル研修を各分掌と連携して実施した。Zoomを使ったり、グループワークを用いたりすることで研修の幅が広がった。夏季自主研修は、分掌企画、個人企画の人数の制限を行うなど感染症予防の対応をしながら、16講座を開講し、多くの参加があった。また、タブレット端末やアプリの使い方の講座も開設され、先生方が意欲的に参加し、お互いに学び合う研修を実施することができた。 ・研究計画一覧を作成することで、各部での研究を学校全体で共有するようにしているが、あまり活用されていないので、研究・研修の充実を図ることができるよう共有方法を工夫していきたい。

図書部	安全に、安心して利用できる図書室にする。	<ul style="list-style-type: none"> 必要な感染症対策をしながら利用しやすい図書室にする。 読み聞かせや図書室内展示などさまざまな企画に取り組み、幼児児童生徒の本への関心を高める。 バーコードによる貸出や蔵書管理を見直し不明本を減らす。 	<ul style="list-style-type: none"> 返却後の除菌を行いながら校内での貸し出しを行うことができた。今後も十分に感染防止対策をしながら整理整頓し、より利用しやすい図書室にしていきたい。 読み聞かせを録音や録画で行ったり、図書室利用の予約等感染予防を行いながら、国際子ども図書館からの借入れ本など様々な企画展示を行ったりして、幼児児童生徒の本への関心を高めることができた。 バーコードによる貸し出し、蔵書管理を効率よく行い、正確に把握することができた。
教育情報部	研修を充実させ教員の ICT 活用指導能力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 教員の ICT 活用指導力を高める研修会を企画し、長期休業中を中心に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏季休業中に全校研修と4つの自由参加の研修を行った。全校研修では、インターネットでのトラブル事例を身近な題材を取り上げ、活発な意見交換を行った。各自由研修とも定員に達し、参加職員に基礎から応用まで一通りの講義をすることができた。また、校内のいろいろな支援機器の紹介だけでなく、実際に操作を体験してもらうこともできた。授業や行事などいろいろな場面で利用する様子が見られた。 今後は、児童生徒が、タブレットを持ち帰ったときの授業をいかにスムーズに行うかを課題として研修を実施していきたい。
生徒指導部	幼児児童生徒が安全な環境で、安心して学校生活を送ることができるための取組を実践する。	<ul style="list-style-type: none"> 防災に対する意識を高めていくために、具体的な対策案を示していくことで、学校として組織的な訓練を実施していく。 幼児児童生徒が置かれている実情の正確な把握とともに職員間の確実な情報共有に努め、学校としての実効性のある対応を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 垂直避難訓練を二年続けて実施できたことで、各教室からの移動方法、避難の順番、避難場所等職員全体で共通のイメージをもって新たな課題を考えることができた。今後も引き続き十分な感染防止対策をして、安心・安全な形で訓練を計画・実践していきたい。 いじめ不登校対策委員会で、各部の情報及び「心のアンケート」で得られた情報を基に職員の対応や具体的な対応について、検討し、職員全体でも情報共有することができた。引き続き定期的な連絡・協議を行っていくことで、幼児児童生徒の実情に沿う形で、組織的な体制で適切な支援に取り組んでいきたい。
進路指導部	一人一人のニーズに応じた適切な進路指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の視点から幼児児童生徒の正しい実態把握をして、本人の意思と年齢に応じた支援を大切にする。 学校生活から卒業後の生活への移行をスムーズにできるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域との連携を図るために積極的に関係機関と情報交換ができるようにした。職業講話で一宮市自立支援協議会の方を招き、中学部、高等部生徒に働くための授業を実施した。卒業後の生活に向けて在学中に取り組むべきことについて、中学部、高等部の生徒が学ぶ機会を設定したり、保護者への情報提供をしたりすることができた。 小学部6年生保護者に卒業後や近い将来の生活や課題を紹介し、保護者への啓発を図った。また、相談支援専門員を講師に招き、地域との連携を図るために相談支援専門員と、どのようにつながると良いのか、将来の生活をイメージしながら今をサポートできるように全校研修（リモート）を実施した。 学校生活から社会生活への移行は、学校全体の課題である。そのために保護者や地域との関係機関との連携をより充実させるために、担当者会議、校内支援会議、学校見学を積極的に行い、地域との関係機関と子どもたちの社会生活イメージを具体的に共有しながらどのように学校生活を送るかを考えたい。
保健部	幼児児童生徒が健康で安全に学習でき、より安心して通える学校を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 幼児児童生徒の保健に関することや医療的ケアについて全職員で共有し、学校全体で取り組む。 全職員で適切な感染症予防対策を実施する。 食に関する実態表を活用し、継続的に安全・安心な摂食指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児児童生徒の保健に関する資料を作成配付し、実際の場面を想定した緊急時の訓練を行った。夏季研修では、摂食指導や医療的ケアについて実施した。さらに、アレルギー対応や医療的ケアに関することを動画閲覧できるようにした。学年やスタディで実施したため、関係する職員間で共通理解を図ることができた。医ケア児の重度化や増加に伴い、できる限りフルケアを実施できる体制を整えた。また月毎にヒヤリハット事例を部会報告、標語ポスター掲示で注意喚起したことで事故につながる事例が昨年度より減少した。 地域感染レベルの変更毎に、県教委の通知を踏まえた感染症予防対策を職員会議やGSで周知した。現時点では学校内感染はなく感染症予防の徹底につながった。引き続き感染症対策の徹底に努めていく。 食に関する実態表の有効な活用法を職員に周知し来年度の対策につなげた。
自立活動部	自立活動の指導において、幼稚部から高等部までつながりのある指導・支援を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 幼児児童生徒の学びの履歴が分かるように、「個別の指導計画」の様式を整える。 「個別の教育支援計画」の目標を基に、個に応じた指導目標や内容を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「個別の指導計画」に中心的な課題が分かるように印を付け、目標を定めやすくなるようになるように様式の変更を検討することができた。今後は学習の履歴をどのように残していくか検討していく。 「個別の教育支援計画」の目標と「個別の指導計画」が関連付けられているか年度初めに自立部が確認すること

		<ul style="list-style-type: none"> 外部専門機関との連携を活用したり、職員が自ら学ぶきっかけとなるような校内研修を計画したりする。 	<p>で、個に応じた指導目標や内容を設定することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症に対する対策をとって実施した外部専門機関との連携は、ほぼ例年と同じ回数の相談をすることができた。毎回定員いっぱいの参加者があり、保護者や本人の困りごとを解決したり、指導の参考となる具体的なアドバイスをいただいたりすることができた。また、夏季研修や勉強会を少人数で複数回に分けるなどの工夫をすることで、最低限必要な研修の機会を作っていくことができた。今後も外部機関と連携をし、実りのある相談会や研修を実施していく。
教育支援部	特別支援学校のセンター的機能として、支援の必要な校内外の子どもの指導・支援を適切に行う。関係機関との連携協働を円滑に進める。	<ul style="list-style-type: none"> 支援が必要な幼児児童生徒に対して、各部・各分掌、または外部の機関と協働で必要な支援を行う。 夏季休業中に特別支援教育研修会を行ったり、事例等を活用したりして、校内外にセンター的機能の取組や特別支援教育に関する情報の提供をする。 学校を中心に地域の縦横関係機関・企業と連携して「みんなプロジェクト」を推進し、校内外に発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部機関との連携として担当者会議、校内支援会議について校内で周知するようにし、担当者会議、学校見学の外部からの依頼文書形式をホームページに記載した。センター的機能として巡回相談等で地域の学校への支援ができた。今後はシステムを活用し、校内外の多様な支援に対応していきたい。 子育て支援のための相談会では、新型コロナウイルス感染症対策をし、方法を工夫しながら実施できた。夏季の職員研修会では、校内外の職員対象にテレビ会議システムも活用して実施することができた。引き続き、実践的な知識・技能を提案したり、ニーズに対応した研修を実施したりしていきたい。 「みんなプロジェクト」では、地域の関係機関と連携して車椅子用レインコート改良版製作を進めた。「職員小物制作研修会」では、様々な作品ができ、子どもたちの学習や生活に活用している。PTA小物制作講習会を新型コロナウイルス感染症対策をしながら計画して準備した。
寮務部	健康で安全に生活でき、安心して楽しく過ごせる寄宿舎。	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策を行いながら健康状態を的確に把握し、生活が快適になる環境づくりに努める。 実効性のある各種訓練を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 舎生が複数名で生活を送る舎室には、就寝時にサーキュレーターを使用して換気を行った。また、発熱者が出た際には、すぐに別室対応して蔓延防止に努めることができた。また、寄宿舎独自の取組で不織布マスク着用を推奨した。寄宿舎で生活を送る全ての人（舎生、指導員、舎監）の協力が得られた。 在籍する舎生の実態に合わせて避難訓練や緊急時対応訓練を行うことができた。今後も起こりうるさまざまな想定を設定して、実効性のある訓練を実施していく。
総合評価		<p>「①指導・支援の充実②安全で安心な学校づくり③教職員の多忙感解消」を重点目標に掲げて取り組んだ。昨年度に引き続き、保健部が作成したガイドラインを基に、全ての教育活動において新型コロナウイルス感染症対策を行い実施した。濃厚接触者の定義に当てはまらないような体制を組み、たとえ陽性者が出たとしても感染を広げないよう工夫した。その結果、校内で感染が拡大することはなかった。また、分散登校、臨時休業時の学習保障の対応として、夏季休業明けに一人1台のタブレット端末の持ち帰り訓練を行い、各家庭での通信状況の調査を行った。その後、状況に応じてタブレット端末を持ち帰り、テレビ会議システムを利用した学習や課題の配信、提出等に活用した。今後、個に応じたさらなる内容面の充実を図り、指導・支援の充実につなげていきたい。教職員の多忙感解消の対応として、各部、学年、各分掌の教職員から業務改善のアイデアを募り、実現に努めた。文書作成業務の効率化や職種や分掌等を超えた横断的な取組、電話対応時間の制限を行うことで在校時間を縮減し、ワークライフバランスを保ちながら働き甲斐のある職場づくりに努めている。</p>	

(2) 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> 指導・支援をつなげる。(14年間を踏まえた指導・支援の充実、職種間での連携・協力) 主体的な学びを促す授業づくりの推進。(卒業後に生きる力の育成、個を伸ばす) 新型コロナウイルス感染症対策を行いつつ教育活動の充実。(安心・安全な授業・行事) 業務の精選による多忙化改善及び協働できる職員体制の確立(働き方改革、チームでの対応)
自己評価結果について	<p>保健部が作成したガイドラインを基準に、新型コロナウイルス感染症対策を実施した。その時の感染状況に合わせてできる方法を模索し、コロナ禍であっても目標達成に向けて取り組むことができた。その結果、校内で感染が拡大することはなく、教育活動を継続できたことは、大きな成果と言える。</p> <p>また、ICT活用の幅が大きく広がった。一人一台タブレットを持ち帰っての学習、保障や他校との交流活動、教職員の専門性向上研修等に、動画配信やテレビ会議システムを活用できた。</p>
今後の改善方針について	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用機会を増やし、教育活動の充実を図る。 感染症対策を継続しつつ、幼児児童生徒の「できた！わかった！」につながる指導支援の充実や、「開かれた学校」の推進を進めることができるよう取り組んでいく。

<p>その他(学校関係者評価委員から出された主な意見、要望)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用の取組について、コロナ禍において、タブレットの持ち帰りの対応や他校とのオンライン合同学習等の取組を継続してほしい。 ・新型コロナウイルス感染症対策について、ソーシャルディスタンスを意識して授業等が行われており、子どもたちが安心して授業に臨んでいるように感じた。 ・「心のアンケート」の取組は、子どもたちに向き合い、その心の在りようについて感じ取ることで、子どもたち、教職員が楽しく学校生活を送れるのでよい取組だと思う。 ・職員の多忙感解消の取組については、教職員に余裕がなければ、よい指導・支援に繋がらないので、時間を意識した業務の進め方が大切だと思う。
<p>学校関係者評価委員会の構成及び評価時期</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・構成…学校関係者評価委員(学校評議員)5名 医療関係者、学識経験者、進路関係者、保護者代表、地域住民代表 ・評価時期…第1回7月、第2回2月